

桜城址に芝桜を



新町上 中村 拓利

地区の有志の皆さん方と桜城址整備を始めてから、ちょうど四年が経過しました。桜城址は通称「城山」と呼ばれ、二区住民のちよつとしたシンボルです。カラマツ伐採、アレチウリ・笹竹などの処理、歩道整備などを進め、今では山頂花壇の四季折々の花が、地域の人や観光客など訪れる人を楽しませてくれています。

南斜面への芝桜の植え込み

さて、桜城はもともと山城ですから、外敵から守るため、何段かの堀割と切岸が主閣（山頂）を取り囲む形になっています。山頂には、史跡保護など勘案しながら花畑づくりと並行して、南側斜面（秋宮辺りから正面に見える位置）に芝桜を植えてみ

ようということになりました。

まずは、一段目の斜面（二メートル幅、十メートルの長さ）も含めて、五百株ほどの芝桜の植栽です。急斜面のこともあり、笹竹の根や雑草の除去など、慣れない作業は結構大変でしたが、翌年の開花を期待しながらの楽しい作業でもありました。春先の二月末には芝桜はふっくらした丸みに成長し、すでに幾つかの株には、小さな花が咲き始めています。これはきつと、すばらしい花が咲くぞ！皆の期待は大きく膨らみました。

ところが・・・

それから二週間後の定例作業日の驚き。「え！何だ、これ！」我々の期待は、見るも無残に粉碎されてしまったのです。数を増していた花々は全て食われ、

辺り一面踏み荒らされた上、根こそぎ吹き飛ばされた株は散乱し、ほとんどがすでにカラカラに乾燥し枯れきっているではありませんか。鹿の仕業です。よほどお腹がすいていたのか、芝桜まで食するとは！園芸屋さんも曰く、「聞いたことがない。」落胆しながらも「仕方ない！また新しい株を植え直そう」と決めました。「ダメモトじゃないか」という気持ちも手伝い、あちこちに散乱していた枯れ株を拾い集め、植え直し、そして再度の鹿侵入防止のための簡易防獣網を設置し、トボトボ家路についた次第です。

びっくり！

それから十日後のこと、びっくりです。ほんの僅かに生き残っていたと思われる葉が蘇生し、枯れ葉の中に緑が広がり、中には幾つかのピンクの花さえ付けているではありませんか。芝桜の生きる強靱さを目の当たりにした時の驚きと感動を今でも覚えております。ちなみに、芝桜の花言葉は「忍耐」だそうです。



芝桜で覆われた南斜面

以来三年、何回かの「鹿の侵入・防獣網の修理」を繰り返しながらも、勝負を制し、最初に植栽した芝桜はすっかり根を張り、一段目の斜面を覆い尽くすまでに成長してくれました。一昨年から、二段三段と植栽面積も順次増やしてきております。たぶん、今年の春には秋宮あたりから、皆さんに「ピンクのじゅうたん」を楽しんでもらえるかも、と期待しております。

地域の安らぎの場所に

国内では、スケールの大きな芝桜公園が大人気のように、「どの丘も芝桜なり寂光土」（群馬県の芝桜公園の句）には比べようもない超ミニですが、それでも地域の人たちに「ちよつとしたやすらぎ」を感じてもらえれば嬉しいのです。

萩倉ロマンのまちづくり



萩倉西組 今井 憲彦

地区のはじまり

萩倉という地区は、江戸時代後期、東俣川に沿った溪谷の大自然のふところの中に、生活の営みを始めた。そして先住の人々がお鍛様といって、開拓の神様を祭った。嘉永七年（一八五一年）に新しく本殿と拝殿の板宮（今の米守神社）が造立された。その時にお鍛様は奥の院として郷林に安置された。その年が正徳二年（一七二二年）、今から三百年前で今年が節目の年となる。

製糸業で栄えた萩倉

さて、この地区で製糸業が栄えたのは、明治十一年（一八七八年）である。この地は製糸業の経営上、最も重要な条件が揃

っていた。広大な砥沢共有林と東俣官林を控えて燃料の確保が容易であったこと、動力源である水車で回転する豊富な水利があったこと。中央線が全通していかなかったため、信越線で大屋まで送られた原料繭は、荷馬車で和田峠を越え諏訪まで運ばれていたが、この地は途中にあつたことなどが挙げられる。また明治三十三年には、下諏訪でも早く電気、電話が通じた。全盛期には七工場、七八〇人の工女がいたと言われている。当時は大変賑わっていたと思われる。そして明治三十八年、中央線が岡谷まで開通したとき、三十三年続いた萩倉製糸は幕を閉じたという歴史があります。

足跡を残したい

そこで萩倉郷友会は、平成四

年御柱祭を機に「萩倉ロマンのまちづくり整備事業」に着手しました。何らかの形でその足跡を残していかないと、この歴史は継承できないと思ったからです。そこで「萩倉郷土誌」「下諏訪町誌」をひもとき、学習を進めてきました。そして当時の工場跡地に石碑の建立、萩倉製糸覚書帳、大絵看板、水車小屋・水車小屋跡の看板、繭倉跡の看板などを、当時連日深夜に至るまで作業を重ね完成させました。



新しくなった繭倉跡の看板

平成二十三年の二月、北小学校の四年生が、当時の萩倉製糸覚書帳を参考にして学習してい



水車小屋

ることを知り、北小の子どもたちと、この事業を率先してやっていた。この事業を聞きながら、萩倉の地を見学しました。その時、当時の事業で製作した看板が古くなっていたのに気づき、新しくしたいと思い、今回の「萩倉ロマンのまちづくりパートII」を着手した訳です。今回は前回の資料があったのでスムーズに進み、水車小屋の柿葺き風の屋根の張り替えもできました。

この事業が、郷土の歴史を子から孫に伝える一助となり、郷土愛醸成の緒となることを願います。今後も活動していきたいと思